

記念講演「「安倍政権とテレビ」～メディアの忖度は我々に何をもたらすのか」の概要

講師：砂川浩慶さん（メディア総合研究所所長）

2016年10月2日

安倍さんは、テレビが嫌いでもテレビに圧力をかけ続けてきました。

2001年、NHKは「E T V 2 0 0 1」で民間団体が開いた戦争時の性暴力を問う国際戦犯法廷の番組を制作しましたが、安倍さんはこの番組に圧力をかけ、忖度したNHK放送総局長が、制作現場へ放送直前まで強く干渉した結果、44分の番組がずたずたに切られて40分に短縮されて放送されました。取材を受けた団体が裁判に訴えましたが、その判決文では、安倍さんが圧力を加えたことを認定しています。

5年後の2006年、第1次安倍政権の時、安倍さんが最初にやったのがNHK経営のトップを握るということです。安倍さんを支援する「四季の会」のメンバー古森重隆さんという富士フイルムの社長（現会長）を経営委員長にした。同時に、安倍さんに近い人たちを経営委員に送り込んだ。それで、その古森さんのお友だちだった福地茂雄さんという方を会長にした。しかし、この福地さんが、意に反して非常にいい人だった。番組には口は出さない、つまり番組にいろいろな雑音が来るのを止めるのが会長の役割なのだとすることを明確に話された非常にいい会長さんだった。この福地さんの後が松本正之さんです。この方も「番組の中身に口は出さない。ちゃんと時間どおり放送が出ているということが大事だ」と社内では言っていたそうです。3年後、松本さんも安倍内閣の意向に沿わない、として再任されず、結局、靱井さんになってしまったということです。

第2次安倍政権になってから、特定のメディアの幹部と会食を繰り返しています。一番多いのが読売新聞の渡邊恒雄です。その次がフジテレビ会長の日枝久です。記者も、特定の記者、例えば、時事通信の田崎史郎解説委員とか、NHKの岩田明子記者なんかです。メディア企業の社長とか会長が総理と飯を食うのは非常に問題です。真っ当な民主主義の国では考えられないことです。

また第1次の時と同じように、NHKへの人事介入です。百田尚樹といった人たちを経営委員に入れる。靱井というNHK会長にはふさわしくない人物を据える。来年の1月25日には任期が切れるので、いま後任選任が進んでいる状況です。ある政治家と話をしていた時、「粗雑な人だとは思っていたけど、あそこまでは思わなかった」と言っていました。さすがの安倍政権にとっても予想外のひどさなので、やっぱり再任はしたくないんですね。ただ、怖いのは、今のままだと一見もうちょっとマシではあるが、安倍さんの言うことを忠実に聞いてくれる人になりがちです。だから、やはり市民的な立場から、こういうような人間をちゃんと充てろということを言っていないと、また政権の意のままに変な会長になってしまうということが想定されます。

靱井会長になってから一番よくないのは、伝えるべきことを伝えていないことです。例えば特定秘密保護法に関してもほとんど報道していません。また、決定的に分かっていないのが、PRと報道の違いです。独自の取材をして初めて報道機関と言えます。靱井さんは、根本的にPRと報道の違いが分からない。社会的な不正があったり、社会的弱者が困っているとか、そういうことを告発していくのがまさに報道なのであって、国がやっていることをPRする役割とは全く違うわけです。例えば熊本地震に関連したことで、靱井会長の「原発報道は公式発表で」という発言です。戦後、NHKは、ウソばかりだった大本営発表の反省の上に立って再スタートしたにもかかわらず、局内で指示しているのは、要は大本営発表をやれということです。

一昨年（2015年）の総選挙の前に、NHKと在京テレビ5社の官邸キャップという人たちを呼び付けて、

要請をしています。これで、ワイドショーでの選挙報道が低調になってしまった。さらに続いて去年の4月ですが、テレビ朝日とNHKが政権与党に呼び付けられました。他国ではあり得ないことです。さらに問題なのは、このことをNHKのニュースでは一切報じていないのです。NHKしか見ていない人は、NHKが自民党に呼び付けられたことをいまだに知らない。このことを伝えない公共放送の罪が重いのです。

放送法の中には、民主主義をきちんと守るという観点から、何人にも圧力をかけてはいけなくと書いてあるのに、政権与党が圧力をかけているので、総務省は自民党にこそ行政指導すべきなのです。非常に単純化、直情化している安倍政権のメディア規制だからこそ怖い、特にテレビ局、新聞社の経営幹部が首相の気持ちを忖度してしまっている。つまり、現場というよりは、経営者がビビっているのです。

TBS「NEWS23」の岸井さんをはじめ、NHK「クローズアップ現代」の国谷裕子さん、テレ朝「報道ステーション」の古舘伊知郎さんらが今春、キャスターを降板したということで、忖度というものがもたらすマイナスがあります。政権批判を行うといなくなってしまうということです。そう思われてしまうということが一番の問題です。

また、別の番組でも国が免許停止とかにできるという高市総務大臣発言もありました。確立してしまったという意味で非常に大きな問題が残ってしまいました。表現の自由というのは、時の政権が判断してはいけなくのです。

7月の参議院選挙ですが、選挙報道はすごく減ってきています。選挙の投票率も過去4番目に低く、18歳、19歳の投票率もそんなに上がらなかった。若年層ほど投票率が下がっている。「争点隠し」もひどかった。いわゆる憲法改正が表に出てこない、前回の衆院選の時にあったTPPがなくなって、急に暮らし・子育てみたいなことが出てきています。新聞報道では、参院選のテレビ報道が3割減でした。特にワイドショーでの扱いが急減している。一番いろいろな人を見るワイドショーで扱わないというのが問題なのです。それでは、なかなか関心が高まらないというところがあります。

「まとめ」で言えば、忖度がもたらすものは何か、その結果として、報道の自由度ランキングがどんどん低下して、ついに今年は72位です。外国からどう見られているかということは大事です。問題なのは、「テレビに関わる問題を報道しないテレビ」です。NHKが自民党に呼び付けられたことをテレビは報道しなかった、これが一番困ります。私たちが知らないことになってしまいますから。視聴者の疑問に答えるということが非常に大事で、異常な状態に慣れてはいけなくということです。

「我々ができること」ということで、1つは、いいものを褒めるということです。TBSの「サンデーモーニング」のキャスター関口宏さんは毎日毎日メールとか電話で「こんな番組はやめろ、やめろ」と言われると、スタッフが疲弊してしまう、「あのコーナーは良かったよ」とか、良い時にはちゃんと伝えてもらえばがんばる気になれる、と言っています。良いと伝えることは、非常に大事なことです。もう一つは、個人としてきちんとした判断をすることです。今の安倍政権にあるような反知性主義とか、歴史修正主義、表現の自由の無理解など、きちんとした考えを持って、成熟した民主主義をつくっていくことです。中でもNHKは公共放送ですから、あまねく、豊かで、かつ良い番組をやらなければいけなくわけですから、特に少数意見であったり、社会的弱者に向けた番組づくりをぜひNHKに求めていくということが大事なのではないかと思っています。

(講演の主要部分も含めて大幅にカットしています。全公演をご希望の方はDVDをお求めください。500円+郵送料です。当会事務局までご連絡ください。)

